

II-86 市街地の河川空間について（その2）

○東洋大学 工学部 学生員 同町 正之

東洋大学 工学部 正 員 福井 吉孝

1、はじめに

我々は、簡単なアンケートを行って一般の人たちが、市街地の川（及び河川空間）に対してどのような感情を抱いているのかを考えてきた。¹⁾²⁾ かなり大胆な外的基準にも拘らず、人々（対象者）の意識をかなり良く探ることが出来た。

ここでは、もう一度、違う角度からアンケートの結果を検討してみた。ひとつはアンケートを行う際に、視覚的に判断してもらうために使用した写真が数量化計算の過程、結果にどのような影響を与えたのか。そしてもう一つは、外的基準を変えて整理したらどのような様子が窺えるかである。

2、アンケート

我々が行ったアンケートは、外的基準を河川を人工的な公園にすることに賛成か、反対かを問うものであり、賛成派を人工指向、反対派を自然指向とした。88年度と89年度の東洋大学土木工学科の4年生、埼玉県内にある女子大の学生50人づつを対象者とした。

アンケートのアイテム数は16個であり、その内の1個に写真を用いた。その写真は、A、B、C3種類でそれぞれ4葉ずつ用意した。写真Aは、栃木県宇都宮市内の釜川で、全面的に人の手を施した市街地河川の例、Bは、埼玉県川越市内の新河岸川で、手は加えられているが観光的な配慮が余り見られない河川の例、Cは、栃木市内の巴波川で、観光を意識して、自然的要素を取り入れて手を加えた河川の例である。

3、1 写真の効果、影響

前述の様にアンケートの項目の一つに写真を用いたが、その影響、効果を考える。

1) 好感をもてる川

表1は、A、B、Cの3種類の内、最も好感を持てるものを選んだ人の内訳であり、その内、外的基準の人工指向、自然指向を選んだ人数も記入してある。

少しは専門知識を有していると思われる東洋大学の学生の選択は、我々の予期してたものとそれ程の差異がなく、2年間でみても同様の結果といえる。

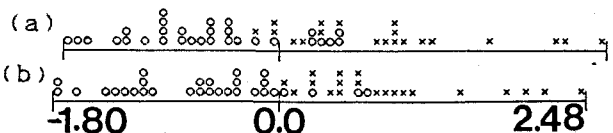
しかし、女性の選択は、異なった傾向を見せている。つまりCの写真を好むし、その理由として自然的とみなしていること

	東洋大生（88年度） （人）			東洋大生（89年度） （人）			女子大生 （人）		
釜 川 (A)	10	人工	7	10	人工	7	10	人工	4
		自然	3		自然	3		自然	6
新河岸川 (B)	22	人工	10	26	人工	12	18	人工	5
		自然	12		自然	14		自然	13
巴 波 川 (C)	18	人工	13	14	人工	11	22	人工	5
		自然	5		自然	3		自然	17

表1. 写真の人数の内訳

図1. 判別得点分布

(東洋大生：89年度)

○－人工指向
×－自然指向

である。女性は、自然という言葉に対し厳格でなく、かなり人工的であっても、緑等を配すことによって自然的と思い込んでしまうようだ。

どのみち男性も女性もやはり多く手が増ええられているものに対しては、不自然さを感じていることが窺えた。

2) 判別得点分布

回答者毎の判別得点分布の一例を図1、2に示す。(a)は写真の項を除いて計算した結果であり、(b)は除かずに計算した結果である。どちらも、人工指向派と自然指向派を良く分ける結果となった。簡単すぎるアンケートが良い結果をもたらせたのであろう。

(a)、(b)に余り違いは見られない。しかし相関比が東洋大で(a)が0.525、(b)が0.568、女子大で(a)が0.379、(b)が0.381といった具合に大きく出たことから、写真を見せることにより判別度合は、僅かだが良くなったといえる。

3、2 外的基準

次に外的基準を変えて、数量化を行うとどのような結果になるかを考えた。つまり写真A、B、Cを外的基準にとり、それぞれの好み別の分布がどのような様になるかをみてみた。

結果は図3、4であり、横軸は図1、2と同様の最大の相関比に対する判別得点分布であり、縦軸は、2番目に大きい相関比に対応する判別得点分布である。

その結果、男子と女子の指向の違いがはっきり出てきた。つまり、女子は、写真Cを自然的な川とみなしており、男子は、Cは一寸手を加えすぎて自然的とは言えないと判断していることである、これは3、1の1)で述べたことを計算でもはっきり示したと言える。

4、終わりに

以上、アンケートの結果を再検討したが、全体的にみて、男性も女性も共に河川（空間）に人の手を或程度加えることを容認しているのが判った。

川と人間の係わり合いは今後更に続いていくわけであり、人間が川（及び空間）に抱く感情を常に何らかの形で掌握する努力を続けることは単に研究対象としての興味だけではなく重要なことと思う。

1) 同町、福井ら：第44回年次講演会

2) 同町、福井ら：第17回関東支部研究発表会

